

J・M・バリーの手紙 — バリー書簡のなかの第一次世界大戦

岩井 学

J・M・バリー (J. M. Barrie, 1860-1937) は、スコットランド出身の作家であり、ピーター・パンの生みの親として知られている。ロンドンのケンジントン公園でルウェリン・デイヴィス家の子供たちと親しくなり、しばしば彼らを自らの作品のモデルとした。

バリーが50代半ばの1914年8月に、第一次世界大戦は始まった。この戦争で、イギリスは長年の宿敵フランスと組み、ドイツと戦火を交えた。戦争に参加した国々は、当初は数ヶ月で片がつくと高を括っていたが、戦闘は4年にわたり、その間、戦車、飛行船、潜水艦、毒ガスなどこれまでの概念を超えた武器が使用され、また兵士だけでなく民間人をもターゲットにした戦闘行為により未曾有の人的被害がもたらされた。そのためこの戦争は、ヨーロッパ人の抱いていた死生観、人生観、世界観を完全に打ち砕いてしまった。

それはバリーとても例外ではない。第一次大戦中に認められた^{したた}J・M・バリーの書簡の一部をここに翻訳する。

1914年

ナン・ハーバート¹宛 8月4日²

あなたのお手紙の追伸を読んで、その良い知らせに本当に安心しました。フリップ³も満足しているようなので、ブロン〔オベロン・ハーバート、ルー

カス卿⁴〕もすぐに起き上がってまた元気になることでしょう。あなたのことですが、この手紙がどこで、いつ、どのようにそちらに届くことになるのかわかりません。わたしたちはここ⁵で世の中から隔離した毎日を送っているのです。先日の手紙を書いているときには、ヨーロッパがすでに戦火を交えているということをまったく知らなかったのです。ときどき夕方になって朝刊を手にとることがありますが、今日は大ニュースになっていることでしょう。

ともかくどのくらいの間、戦争から身を遠ざけていられるか私自身分かりませんので、それならば、早い方が良いかもしれません。しかしセルビアに行くとなると、あなたは中央からずいぶん離れてしまうこととなりますので、今は様子を見た方がいいのではないかと私は思いますが、あなたのほうがよくご存知でしょう。こんなときにこんなに人里離れたところで魚釣りにかまけている（あまり釣れませんが）のも、あまり気分の良いものではありません。というのもここ4日間朝な夕な雨の降り通しで今も降っていますし、そして世界中が洪水で沼地と化しているのですから。

ヒュー・ルイス夫人⁶宛 9月9日

ジャック⁷は北海にいるようですが、これ以上は口外できないようで、よく分かりません。ジョー

1 Nan Ino Herbert, Baroness Lucas (1880-1958). ブロンの妹。兄の死とともに爵位を引き継いだ。

2 イギリスは8月4日の深夜、ドイツに宣戦布告した。

3 Sir Alfred Fripp (1865-1930). 英皇太子の侍医も務めた外科医。

4 21頁注29参照。

5 スコットランド西部、アーガイルシャーの別荘に、バリーはルウェリン・デイヴィス家のジョージ、マイケル、ニコを連れて7月末から遊びにきていた。

6 Mrs Hugh Lewis. 1912年に彼女の4歳の息子ピーターが、バリーにピーター・パンのイラストを描いて送ったことから親しくなり、バリーとは家族ぐるみの付き合いとなった。

7 John Llewelyn Davies (1894-1959). ピーター・パンのモデルともなったルウェリン・デイヴィス家の次男。この書簡が書かれた3日後に20歳となる。

ジ⁸とピーター⁹は任務を言い渡されるのを待っています。このように世界が突然変わってしまい、何とか好転するように願わずにはいられません。しかしそれもすでに若者たちの手に委ねられています。そして彼らの今後に関しては、我々に責任があります。彼らもいずれは健康的な生活が送れるようになると信じています。……私はおそらく土曜日にアメリカに行きます。我々も皆、できることは何でもしなければなりません。

1915年

ジョージ・ルウェリン・デイヴィスから J・M・バリーへの手紙 3月7日

特に書きとめることはありませんが、たった一つぞっとすることがありました。僕からわずか1ヤードにも満たないところでの無惨な死に遭遇したのです。ジムおじさん、僕自身は胸壁のすぐ下にいたので、かすり傷一つなく済みました。そのかわいそうな仲間が僕の部隊の者で、そのときは一瞬も銃撃の手を休めることができないところに頭を出したのです。頭部を撃ち抜かれたので、苦しむことはありませんでした。しかし心が凍り付くような光景でした。こんなことは書くべきではありませんが、このときの印象が消えないのです。今度の喜劇もうまくいくといいですね。是非観てみたいです。

ジョージ・ルウェリン・デイヴィス宛 3月11日

君のすぐ近くで起こったことが君の耳に届くのに、どのくらいかかるのだろうか——もしかしたら我々のほうが先に知るのかもしれないね。たった今聞いたのですが、君のおじさんのガイ¹⁰が戦死されたそうです。職業として軍人を選んだおじさんには、万人が味わえるわけではない、人生の中でとても輝かしい時期もかつてありました。お子さんがいらっしやらず、だからこそ太陽が沈んだあとも一生懸命

生きようとされていました。そんなことを今思い起こしていました。おじさんは、デュ・モーリア家¹¹最上の魅力をまぎれもなく兼ね備えていました。それは明るい性格と悲しげな微笑みであり、また悲しげな心と明るい微笑みと言っても良いでしょう。いつも、何か物悲しい雰囲気を漂わせていたように思っています。芯は強いものを持ちながら、しかし常に悲しげな笑みをたたえていた方で、本当はそうでないと知りながら、人生は楽しいものだという振りののできる方でした。私がこれまで知り合った人の中で、最も魅力的な人物の一人です。

もちろんこんなことが無くても、君の置かれている多かれ少なかれ危険な状況をいつも気に掛けています。でも今日はいつも増してふさぎ込んでしまい、君が男子ではなく21歳の女の子であったら良かった、と本当に心の底から思っています。そうであれば、近頃いつも考えていることを、君に直接言うこともできるのに。4年もの間、私は君が成人して21歳になり、そしてさらに成長していくのを待ち望んでいました。そうなれば、お互いにもっともっと親密になれて、言葉もいらぬような間柄になれると思っていたからです。君に戦争で名を挙げてほしい、などとはこれっぽっちも望んでいません。そのようなことは露ほども思っていない。しかし私にはたった一つどうしても叶えてほしい望みがあります。それは、一度でいいから、また同じ時を一緒に過ごしたい、ということです。私のためという気は毫も無かったでしょうが、君は将官となって帰ってきました。私はただ君さえいてくれれば良いのです。君が私にとってどれほどのものであるかということを頭の片隅に入れておいてもらえれば、これまで以上に注意深く危険を避けてくれるかもしれないから、こんなことを書かずにはいられないのです。

自分のすぐ隣で人が殺されていく、というのは恐ろしいことに違いありません。しかしそのようなことでも遠慮せずに教えてください。夜になるとその

8 George Llewelyn Davies (1893-1915). ルウェリン・デイヴィス5兄弟の長男で、当時21歳。幼少の頃からバリーと親しかった。
 9 Peter Llewelyn Davies (1897-1960). ルウェリン・デイヴィス家の3男で、当時17歳。自分の名前が有名なキャラクターの名前として使われたこともあってか、バリーとは若干の距離を置いていた。
 10 Guy Du Maurier (1865-1915). ジョージの母親の兄。ボーア戦争にも従軍した軍人。第一次大戦時はフェュージリア連隊(歩兵連隊)の中佐として、ジョージから4マイル(約6キロ)離れた前線で戦っていた。
 11 ジョージの母方の家系。母シルヴィアの兄ジェラルドは俳優であり、また彼の娘ダフネは、ヒッチコックの映画にもなった『レベッカ』、『鳥』の作者。

ようなことが目の前で起こっているかのように感じられることもあるでしょう。戦争が栄光あるものだという、かつて抱いていた認識はすべて消え去りました。いまや私にとって戦争とは、言葉にできないくらいおぞましいものでしかありません。¹²

エリザベス・ルーカス¹³宛 7月31日

今9時30分で、一人で夕食を終えたところです。¹⁴ というのもエドワード〔E・V・ルーカス¹⁵〕は親戚の人たちと派手なパーティをしにいてしまいましたから。メロン、ロブスター、七面鳥……私は自慢しているではありません。この食事をあなたに食べさせてあげることができたら、とずっと願いながら食べていました。それから、食べながらこんなことも考えていたんですよ。(1) ベタンクールで善行を施そうというささやかな試みに全力で取り組んでいるあなたの姿を見て、私はとても素敵だと思ったのですが、このことをあなたに直接伝えなかったのはなんて舌足らずだったのだろう(とマイケルなら言うでしょう)ということ、それから(2) あなたと知り合いだったことで、私の人生が大きく変わったということです。(ちょっと自分中心ですが)二つ目の方のことで頭がいっぱいになり、あなたを紹介してくれたヒューレット¹⁶に乾杯をしなければいけないような気に突然なっていました。彼がいなくても私たちはその後出会っていたかも知れませんが、しかしこの世界は不思議なもので、そんなことは誰にも分かりません。ですから彼に乾杯、そしてお裾分けで彼の奥様にも。あなたがいなければ、私はよほど陰気な人生を送っていたことで

しょう。ベタンクールの病院が万事順調にやっていると確信が持てれば、私も幸せな気持ちで、本当に幸せな気持ちで過ごすことができるでしょうが、患者たちのあの喉が心配です¹⁷。ちゃんと良くなると信じています。もし良くならなければ、医者に次の手段を講じてもらわねばならないでしょう。そのときはあなたも先生に従わなければなりませんよ。あの陰から外へ出てみると、私にはすべてが本物で素晴らしく思えて、たとえ少しいたとしてもあなたは人々のために間違いなく貢献している、と強く確信しました。人々の未来を形作る手助けをしているのです。それは私たちが樹を植えているようなものです。ドイツによる侵略が単なる記憶となった頃に、素敵なお実をつけることでしょ。今「私たちが」と書きましたが、実際にやっているのはあなたです。あなたがてきばきと、しかし威張らずに仕事している姿を見ることが私の喜びでもあるのです。「自分が愛している仲間から求めすぎてはいけない」という、この上なく賢明なギリシアのこのことわざ(近頃気に入っているもので、以前あなたにも教えたと思うのですが)はその通りですが、しかし私はあなたからは多くのことを期待してしまいます。そしてあなたは私の期待に正面から応えようとしてくださっています。

トマス・ギルモア¹⁸宛 7月26日

移動は全く滞りなく済みました。これもすべてスコットランド・ヤードスコットランド・ヤードのロンドン警視庁の人たちの計らいで、まさに王族のような道中でした¹⁹。ここは前線から約18マイル、パリからは120マイル〔約190キロ〕の地点です。

12 バリーが最も親しくしていたジョージは、3月15日に西部戦線で戦死した。この書簡がバリーからジョージへの最後の手紙となった。

13 Elizabeth Lucas. E・V・ルーカスの妻。文学的才能にあふれ、夫との共著で子ども向けの本を出版するなどしている。またバリーの発案で、戦争の被害を受けたり孤児となった子供たちのための病院を、フランスのランス南東、マルヌ河畔にあったベタンクール城の建物を利用して始めた。バリーも2000ポンド出資している。

14 この書簡はパリのミュリス・ホテルから投函されたものである。

15 Edward Verrall Lucas (1868-1967). イギリスのジャーナリスト、エッセイスト、出版社顧問。『パンチ』のスタッフでもあった。

16 Maurice Hewlett (1861-1923). イギリスの小説家、詩人、エッセイスト。ヒューレットに晩餐に招かれたバリーは、そこでルーカス夫妻と知り合った。また『ピーターとウェンディ』に登場する海賊の一人チェコの名前は、ヒューレットの長男の名前から取られたものである。

17 この年の4月からドイツ軍が使用し始めた毒ガスによる被害と推測される。

18 Thomas Lennox Gilmour (1859-1936). イギリスの作家A・E・W・メイソンのマネージャーであり、バリー率いる弱小クリケットチームの一員。元銀行員でジャーナリストに転身、ノッティンガムの出版社ではバリーと同僚であり、ロンドンに出てからは約四年にわたりバリーと共同生活をしてきたこともある。

19 この書簡はベタンクールから送られたものである。

……ランスがある北の方角からは、銃声が聞こえてきます。……飛行機が轟音をたてて我々の頭上を飛んでいきます。……ドイツ人たちは、パリに進撃する途中で、この城に一時滞在しました。今は子供の病院になっています。砲弾の破片で片足を失ったランスの少年がいます。両親が会いにきて泣いていましたが、その子はあまり喜ばず、外に遊びにいってしまいました。ある出来事の一つ——先日の晩、軍楽隊の鼓手が、夜間は犬をすべて鎖に繋がなければいけないと村を注意して廻りました。これはなぜかという、犬が夜中に遺体をあさって掘り起こすという、気味の悪い行動をとるようになったからです。1週間ほどで戻ります。

ナン・ハーバート宛 8月8日

スコットランドに戻ってきて、マイケル、ニコラス²⁰といっしょにいます。前回お会いしたあと、ちょっとした旅に出ていました。以前お話した、フランスの小さな病院²¹まで様子を見にいったのです。とても陰鬱な大きな病院で、地下道が張り巡らされていて、フランスの将校とすれ違ったりします。マルヌ河畔にあります。1日中遠くの銃声が聞こえてきます。朝はたいい飛行機の音で起こされます。静寂の世界が音で満たされています。患者は子供や女性で、ひどい怪我を負っているか、病気で見放された人たちです。砲弾で片足を吹き飛ばされたランス出身の男の子もいました。この辺りの村々は悲惨な状況で、50件中49件が壊されてしまった、という村もいくつかあります。パリに猛進していくドイツ軍に破壊されてしまったのです。その辺りに埋葬されたドイツ兵も数千人はおり、マルヌ河畔では夜は犬を鎖につながねばならない、という気味の悪い通告もなされました。犬がうろつき回って掘り返したりするからです。進軍の際に病院に立ち寄ったドイツ兵もいましたが、病院施設に手を出すことはありませんでした。

今年のスコットランドには^{ひとけ}人気がありません。健

康に問題のない男性はほとんど全員出征してしまっただけですし、この大きなホテルに滞在しているのは私たちだけです。私自身は戻ってきたくなかったのですが、MとN〔マイケルとニコ〕にはベストだと思えたのです。

ブロンはまだ良くなるのでしょうか。彼によるしくお伝えください。それからレスト²²での近況もぜひお知らせください。今この瞬間に階段までいって、ナース姿のあなたが上から下りてくるところを一目見ることができたらさぞ良いでしょうに。あなたが引き受けた仕事はとても大きなもので、もう長いこと取り組んでいらっしゃると思いますが、とにかく価値のある仕事だということは間違いありません。

フロレンス・ハーディ²³宛 8月15日

私は人里離れたスコットランドの奥地にて隠遁生活を送っていたため、あなたからのお手紙が私のもとへ届くまでにとっても長くかかってしまいました。今年はこの辺りは、天地創造の前日かというほどに、人影がまばらです。拙著は喜んで献呈いたしたいのですが、まず私自身が入手するのが困難ですゆえ、代わりに同封しましたささやかな小切手でどうかご容赦ください。

私はフランスのマルヌへ出かけておりましたが、そこで新しい木造の家の玄関の前で穏やかに編み物をするお婆さんに出会いました。実は以前その場所に、パリへ猛然と向かうドイツ兵が二人やってきて、そのお婆さんはひどい目に遭わされ、家も壊されてしまったそうなのです。現在ではそのドイツ兵は彼女のジャガイモの下に埋葬され、そして老女は編み物を続けているそうです。このことは、ご主人のお書きになる一編の詩のように私を捉えました。お褒めいただきありがとうございます。ご主人にも帽子を取って挨拶いたします。ご主人は我々にとって偉大な人物です。

20 Michael Llewelyn Davies (1900-21), Nicholas (1903-80) はルウェリン・デイヴィス家の4男、5男。

21 エリザベス・ルーカスが始めた病院。19頁注13参照。

22 ブロンとナンは、ベッドフォードシャーの大邸宅レストパークを負傷兵のための病院施設として開放し、以後「レスト・イン・ベッツ」と呼ばれるようになった。バリーはこの病院のために金銭的援助もしている。

23 Florence Hardy (née Dugdale, 1879-1937). 19世紀後半を代表するイギリスの作家トマス・ハーディの2番目の妻。夫との年の差は39歳。

チャールズ・スクリブナー²⁴宛 9月16日

先週の水曜日の晩に私のところにいらしていたら、ツェッペリン²⁵とそれに向けて発射された砲撃とを、あたかもボックス席で見ているかのようにご覧になることができましたのに。その晩は星が数えるほどしか見えない暗い夜で、ツェッペリンがサーチライトにくっきりと浮かび上がっていました。空爆は20分ほど続いたでしょうか——すぐにおびたしい対空砲火が始まり、そのほとんどは届きませんでした。もう一息というものもあり、そしてだんだんとツェッペリンは遠ざかって消えていきました。ロンドンにはひっそりと静まり返ったようで、遠くで吠える犬の鳴き声も聞こえてきました。何かを待っているような、陰鬱な雰囲気でした。戦闘員たちは上空でいったいどのような感じだったのでしょうか！その後、通りに出てみました。パニックになってはいませんでした。奇観を見ようと人々が集まっていた。被害を受けたのはここから1マイルほどのところで、立派な建物がいくつか大きく破壊され、20人の死者、そして重傷者はその倍ほど。これらの爆撃で発表される死傷者数はこれまでも正確だったので（いろいろな噂もありますが）、この程度の被害で済んでいるのは驚きです。その日の晩はブルームズベリーのクイーン・スクウェア（その辺りでは一番すてきな昔からの広場です）の真ん中にも爆弾が一つ落ち、2000枚の窓が割れたものの、しかしながら死傷者はそこでは一人も出ませんでした。ただ窓が割れて散乱する——というのが空爆の効果だったようです。

イギリスの賢明な人たちは、アメリカ参戦に関して次のような見方をしていると思います——もし我々が勝つとお考えであれば、あなた方は身を引いていても良いでしょう、しかし我々が負けるとお考えならば、ご自分たち自身のためにもアメリカは参

戦すべきです。我々は今のところ勝利すると考えています！アメリカが駐独大使を引き揚げてくだされば、それは我々にとっても最も喜ばしいことで、間違いなく大きな一歩となります。ともあれウィルソンは真のリーダーと言っても良い人物のようですし、私の見る限り、そのような人物を持っているあなた方は幸せです²⁶。

近頃O・ヘンリーを読んでます。とても幸せな時間です。お近づきになるために何か差し上げておけば良かったと考えています。〔W・E・〕ヘンリーが言っていたように、彼は本物の「名手」です。彼の「自伝」²⁷を手に入れられないのでしょうか、出版準備中だと思うのですが？オモニエ²⁸が、最近私が見た中では最も良い短編を書いていました。確か「旧友」というタイトルのものが出色でした。

1916年

オベロン・ハーバート（ルーカス卿）²⁹宛

3月30日

やあ！近況報告です。まず始めに、ナンはこれまでになく元気な様子です。ずいぶん長いこと打ちひしがれたような様子だったのですが——私が思うに、これもひとえにとにかく働き詰めで、過労で身が持たなくなるまで休もうとしなかったからだと思えます。ナンはレストのことは本当に一生懸命打ち込んでいて、そのためすべてが完璧でない心が休まらないようで、病院の骨折り仕事に押し潰されそうになっていたのです。一つありがたいことに、レストの人たちは、平穏な近頃は皆とても良くやってくれていて、ナンも安心していただけるようです。

ナンが、レストでのあなたの計画について教えてくれました。とてもすばらしい計画だと思います。

こちらでは、戦争に関してここ最近のなかではか

24 Charles Scribner (1854-1930). 父親はアメリカの出版業者で、父の事業を引き継ぎ出版社を経営した。

25 ドイツの飛行船で、第一次大戦において人類史上初めて無差別爆撃をおこなった。このことがイギリス、そして他のヨーロッパ諸国に与えた衝撃——物理的のみならず心理的衝撃——は計り知れない。

26 アメリカは、1917年4月にドイツに対し宣戦布告。

27 1909年4月4日に『ニューヨーク・タイムズ』に掲載された「O・ヘンリー、自分自身、人生、その他のことについて語る」という記事を指すか。

28 Stacy Aumonier (1887-1928). ゴールズワージーから「史上最高の短編作家の一人」と賞賛されたが、現在ではほとんど忘れられている。

29 Auberon Herbert, 8th Baron Lucas (1876-1916). ナン・ハーバートの兄。ボア戦争時に『タイムズ』の記者として戦時に赴き片足を失った。その後、政治家の秘書や農漁業庁長官などを歴任、第一次大戦中の1915年5月には、義足ながら英国陸軍航空隊に入隊。1916年11月に西部戦線を越えてドイツ側に侵入、その後消息を絶った。「ブロン」のあだ名で親しまれ、生涯未婚。

なり希望に満ちた雰囲気（この表現はあなたには別の意味を思い起こさせるでしょう！³⁰）が感じられるように思います。確証があるわけではありません。ヴェルダン³¹は大きいですから、ドイツも大きな負担を強いられることでしょう。北海や英海岸でのいざこざも近々予想されます。

ひと月前にヴェルダン近くでツェッペリンがラヴィニー砲により撃墜されましたが、それがもう少しで私の子供たちの病院の上に落ちてくる所でした。子供たちは心配そうに飛行船を見上げていましたが、実際には1マイル離れたところに撃ち落とされました。翌朝、子供たちは1フランずつもらって、楽しそうにスキップしていました。もらったコインのことを「ウィリアムの涙」と呼んでいました。

ヒュー・ルイス夫人宛 7月30日

お言葉に甘えて、9月になったら早々にあなたのもとへ馳せ参じる決意を固めました。マイケルは8月10日くらいまでキャンプへ行っています。そこから8月末まではルーカス夫人とオードリーも含め、皆で海辺の保養地にでも行く予定にしています。9月の最初の週は私はロンドンで外せない用事がありますので、MとN〔マイケルとニコ〕をあなたに預け、私は体が空き次第合流する、というのはどうでしょうか。こんなことが起こっているときに、旅行のことを考えるのはずいぶん大胆ですね。ピーターは4週間前から、ソンムの北部で激しい戦闘を戦っていて（推測です、極秘事項ですから）、恐ろしい体験をしています。彼の連隊長は先日殺され、また同じ部隊から大勢の死傷者が出ているようです。告白しますと、この家に帰ってくると、電報が来ているのではないかとびくびくしながら探してしまいます。ルーカス氏の兄弟が一人ソンムで亡くなりました。私のいとこも亡くなったか捕虜となったようです。ここひと月で我々の身近な人たちが本当に多く亡くなっていきました。

1917年

ヒュー・ルイス夫人宛 7月16日

帰宅するとあなたからのお手紙が来ていました。ピーターとは何とか48時間いっしょに過ごすことができ、夢のようでした。メシーヌ・リッジでは、目を見張るような光景を目撃しました。ドイツの飛行機が1機、雲の中から飛び出してきて、我々の飛行船6機の間を飛び回り、うち4機が炎上し、ぼろ切れのようになってしまいました。しかし見所は、4人の飛行士たちがパラシュートで無事逃げおおせたことでした。唯一危険を感じたのは、ジョージのお墓を探していたときです。お墓は無事見つかりました。

グランハフラン³²への度重なるお招きありがとうございます。しかし（1）厚かましいことはできない、（2）芝居の制作の件が決まらないうと、休暇のことについては何も決められない、という点から遠慮する次第です。ヒュー、メアリそしてビッティとゆっくりとお会いできて楽しかったです。住処はまだ散らかり放題です。

1918年

エリザベス・ルーカス宛 1月29日

マイケルがオードリー³³に書いた手紙でもうご存知かと思いますが、我々はティリントンまで遠征し、とても楽しい時間を過ごしました。Mはペットワースで古い店を見つけ、ここ³⁴の自分の部屋用に石けん箱を勇んで買っていました。しかしその部屋もリフォームが済んでいなくて、実際、まだ足の踏み場も無いような状態の部屋が三部屋あります。近頃の職人さんの働きぶりが想像できるでしょう。とにもかくにも私の書斎は何とか完成し、書斎の煙突もついに活動を始め、とても魅力的な部屋になりました。そして書斎のとなりの小さな台所もなかなかのものです。私にはこの住居は上等すぎる、そして私のわびしい生活からすると、この部屋と寝室があれば私には十分だという気が初めはしていました。ブラウ

30 ここで用いられている“in the air”という表現は、「空中に」あるいは軍事では「無防備で」という意味もある。ルーカス卿は英国陸軍航空隊の一員であった。

31 フランス北東部の要塞都市で、この年の2月にドイツ軍による猛攻撃を受け、フランス軍は甚大な被害を被った。

32 ルイス家はイギリス西部のウェールズにあった。

33 Audrey Lucas. E・V・ルーカスとエリザベスの一人娘

34 ロンドン、ストランド街近くのアデルフィ・テラス、バリーの住居。バリーは下の階から広い上の階へと引っ越しの最中。

ンは私が望むようにしてくれました。私も残りの部屋はそのままにしておくつもりでした。しかしカムデン・ヒルでのことでこの方針は消えました³⁵。メアリは2月中に発つ予定です。そのためマイケルとニコラスはここで暮らすことになり、私の考えでカムデン・ヒルにはしばらくの間管理人をお願いして家具を管理してもらい、それから借地権を処分することにしました。今は離れていますが、MとNと一緒に暮らすことという考えにはもちろんわくわくしています。悲しいことは、マイケルは今17歳半で、1年も経たずして軍隊に招集される可能性があるということです。本当に落ち込みます。このことは考えないようにしていますが、しかしこれは、我々を包み込んでいるように見える運命とおそらく深いつながりがあるのでしょうか。そうするとあなたに手紙を書く気力すらなくなってきます。しかし私は、あなたがどうしているだろうとしばしば考えては、順調にやっていることを願っているんですよ。

あなたのおっしゃる美女たちが、魚の薫製を私のために料理してくれている光景にはなかなか出くわしませんが、彼女たちに私がうんざりしているのか、彼女たちのほうが私にうんざりしているのか、私自身もよく分かりません。私たちがやっている赤十字の仕事についてはすでにお聞きになっているだろうと思います。E・Vは私以上によくやってくれていますが、それでも私もかなり手伝っています。その人たちに『ピーター・パン』の原稿をあげる約束をしたのですが、1枚も見つかりません。しかし、他にもたくさんあります。原稿をお願いされた作家たちは、たいいてい奥さんが管理しているなどと言い逃れします。私は重荷を背負い込んでいるのに、誰も気にかけてくれません！ しかしこれもまた運命なのでしょう、そのうえ感謝しなければならないことも確かにまだたくさんあります。空襲警報と空中戦が昨夜あり、ほんの目と鼻の先で負傷者が出ました。これ以上詳しく書くのは差し控えましょう。

それではまた、お返事待っています。こちらからも書きます。

エリザベス・ルーカス宛 2月20日

あなたにお手紙を書くために、我が家の大きな暖炉の前から這い出てきたところです。シャーロット・ブロンテを手に、暖炉の前に座っていました（読むといつもエミリー〔・ブロンテ〕のことを思い出します）。屋根の上では強い風が吹き荒れていました。下の方では全然強い風ではないのかもしれませんが、振動音のする煙突帽を被った頭上の煙突は、ちょっとした風でもマクベスに出てくる魔女のような悪魔的な音を立てるのです。しかも見た目も魔女に似ています。しかしながら、船乗りたちの言うこの荒れ模様の晩のおかげで、空襲部隊が出撃できなくなれば良いが、と思っています。

暖炉の炎は今や燃えさかり、3フィートの薪はごうごうと音を立てています。炎のおいが温かい農民のように、人を部屋の中へと誘います。できれば、天の力で、あなたもこの部屋へと誘ってもらえないかと願っています。暖炉の前に座っていると、時々奇妙な感覚に襲われて、自分は下の階の部屋で茶色の椅子に座っていて、上の階に誰かがいるような気がするときがあります。下の階は戦争前のヴィクトリア時代のままのような気がして、何が起こるのかも知らずにそこに住んでいたことを思うと不思議な気がします。いつか玄関が開いているときに忍び込んで、私がそこにいないか確かめてみましょう。それから部屋の隅に置いてあった机と、それと直角に置いてあった二つのソファがありました。そのソファは、ロンドンで最も座り心地の悪いソファだと当時から讃えられていましたが、その片方を処分しました。残った方と机は私の役に立ってくれることでしょう。

この部屋の飾り付けは、今回はあなたには頼めないし、代わりに別の人をお願いする気にもならないので、やむを得ず自分でしました。自分が年をとった見習職人のような気がしてきました——免許か、そんなようなものを取るための作品が作れることを示すために、まあまあ作品を以前作って、それ以降は何も作っていない見習職人のように。とにかく自分にとっては良かったはずだと感じています。日曜大工は目が休まります（目と言え、タイプをしても以前はへっちゃらだったのに、今はとても悪い

35 マイケルとニコの面倒を見ていたメアリ・ホジソンがカムデン・ヒルを去ることになり、二人はバリーとアデルフィ・テラスに住むことになった。

状態になってしまいます。あなたが母語を忘れて戻ってくる頃には、私の目も足腰もよれよれになっていることでしょう。この部屋で、たっぷり10年は暮らしているように見えるくらい汚れてしまいました。床には絨毯を敷いて、その上にマイケル・ルウェリン・デイヴィス殿寄贈の敷物を敷きました。それから灰色に赤いモール刺繍の入ったカーテンはあなたもお気に召すと思います。ブラウンが機嫌のいいときには、女性がかわいいベチコートを見せるためにちらっとスカートをめくるように、カーテンをわざと見せてくれます。絵は小さなものしかありません。本や薪は、我々の前衛芸術に対して不平をこぼしています。そして家具に対してはせせら笑っています。新しい家具は、柔らかい椅子一つだけで、それも前述のM・L・D殿からのものです。座ると沈み込んでしまいます。この椅子はあなたが沈み込むのを待っています。

椅子やソファには、カーテンと同じ灰色のカバーをしました。そしてその上に置くクッションも買いにいくつもりです。暖炉の前には木製の古い長椅子が二つと山積みの薪しかありません。薪は近頃ではベンヴェヌート・チェリーニの傑作のように見え(るだけでなくそんな態度もして)ます。

今日、戦争について、とりとめのないことを考えて、作品にでもしようかと思いましたが、詩人でない私にはうまく言葉にできそうにありません。それはこんなことです。殺戮のあとの死んだような静けさの中で、地面に横たわる者たちが思いめぐらすことといえば、自分が生きているのか死んでいるのかということではないでしょうか。そこでは、生存者と戦死者とを分つべしは、とても薄いものであるに違いありません。そしてお互い自分がどちらにいるのか、こんがらがってしまうこともよくあるでしょう。自分があるのがどちら側なのか、互いに聞きあっている光景が見えます。自分が死者側なのか生存者側なのかはあまり頓着していません。そしてべしは少し分厚くなり、二つの集団はそれぞれ別々の方向へ進んでいきます。間違っ

て進んでいく者たちも見えます、死者が生きている者たちと、生者が死んだ者たちと。幽霊とはそのような者になるのでしょうか。こんなことを考えていると頭が痛くなってきそうです。

黄泉の国へと進んでいく集団には、ドイツ人もイギリス人も同じようにいるでしょうから、これまで敵同士だったなどということはすっかり忘れて、手を取り合って進んでいってほしいものです。

命を落とした者たちの敵を取る！ これは戦争における最も度し難い叫びです。命を落とした人たちがそれを聞いたら、いったいどう思うでしょう。

『イートン校新聞』にマイケルが書かなければならない詩のテーマを聞いたら、オードリーは面白がるのではないのでしょうか。「書かなければならない」というわけではなく、自分から飛びついていったのですけどね。それは、マイケルも含めた寮監の三人が、威張り腐った臨時警官にスラウ³⁶まで出頭させられたという内容だそうです。行ってみると、部屋のブラインドを下げていなかったということで、国土防衛法³⁷違反とされたそうです。三人の少年に喜びを！ M・L・Dに幸あれ！

それではおやすみなさい。もう真夜中ですから、警報用の発煙筒は焚かれないでしょう。発煙筒と言っても打ち上げ式で銃で撃ったように飛んで行って、空に赤い星々が広がるのです。きれいなもんですよ。私はもう少し起きています。暖炉のそばで〔シャーロット・ブロンテの〕『シャーリー』を読みながら、あなたとエミリーの違いでも考えましょうか（あなたはエミリー・ブロンテに似ていなくもないですよ）。

ヒュー・ルイス夫人宛 11月22日

フランスへ2週間行って、昨夜帰宅したところで、あなたからのお手紙も昨夜拝受しました。私がパリで迎えた「終戦」の日³⁸の晩のことについて、あなたの居間の暖炉で——午後11時頃、あなたとお話ししている場面を想像しました。なんと言っても

36 イングランド南部の都市。イートンと同じパークシャーにある。

37 第一次大戦勃発を受け、十分な議論もないまま開戦4日目に導入された。戦争遂行のため人々と産業を厳しい統制下に置くことを目的としたもので、日本の治安維持法に似た法律。戦争の長期化にともない適用範囲が拡大されていき、検閲、反戦主義者の身柄の拘束から酒類の販売規制にまで及んだ。

38 この書簡が書かれた約10日前の11月11日、ドイツは休戦条約に調印、翌年の1月から戦後処理を話し合うパリ講和会議が開かれた。

脳裏に焼き付いているのは人々の幸せそうな顔です。一夜にして皆が永久に変わってしまったかのようで、その幸せそうな顔がときに叫び声も交えて言っていたのは、「我々は勝利した」ではなく「これで終わった」でした。私はヴェルダンへ行き（地下40フィートの要塞で一晩過ごしました）、イーブル、そして他にも多くの場所へ行き、1日200マイルかそれ以上自動車に揺られながら帰ってきました。出会った中で最も面白かった人物はハウス大佐でした。

本当に終わったんですね！ マイケルのことをそんな風に言うなんて、ピーター〔・ルイス〕もかわいらしいですね。私がどれほど感謝しているか想像できるでしょう。マイケルももう軍隊からお呼びがかかるなんてことも無いでしょうからね。日曜日（ニコの誕生日です）にはイートン校へ行って、「彼の未来について論じてくる」つもりです。マイケルは手紙に「あなたのお望み通りのことをします。追伸、世界一周なんてのはどうですか？」と書いてよこしました。

イートン校では風呂桶をドラム代わりに学生たちが行進して、夜が明ける頃にはマイケルは罰として500行の書き取りを命ぜられてしまったそうです！（罪状は、床に就いているべき時間に屋上で逆立ちをしていた、とか何とかいうものでした。）

バターについてのご提案、本当に感謝します。しかしそうすると配給表の方に問題が出てきやしませんか³⁹。実はこの冬一番心配しているのは石炭です。この大きい部屋にいるのもあまり気持ちのいいものではありませんし、台所を使うのはあきらめてすべて外食で済まさねばなくなるかもしれません。うんざりです。フランスへ行ったときはいつも心地よく暖かでした——暑すぎるくらいでした。そしてお肉も好きなだけありました。でもそれも表面だけのことだったのでしょう。渡仏前にここで楽しい晩餐がありました。アスキス氏とビレル氏だけがお客さんだったのですが、実はレディ・シンシア⁴⁰とレディ・ダファリンが給仕の格好で給仕の振りをして、二人を完全にかついでしまったのです。

ヒューがずいぶん良くなり、またあなたも我々同様インフルエンザにかからずに済んだそうで、心から喜んでいます。書き忘れるところでしたが、セダ

ン近くで、捕虜となったドイツ軍の一団に遭遇しました。11日から2日経っていましたが、終戦のことを何も知らなかったそうです。何でも穴から掘り出されて助け出されたそうです。

* 底本として Viola Meynell, ed., *Letters of J. M. Barrie* (London: Peter Davies, 1942) を用い、また注の作成にあたっては松村越、富田虎男、『英米史辞典』、研究社、二〇〇〇年を参考にした。

39 食料の配給は1918年の始めに導入された。特にバター、砂糖、肉、紅茶が不足していた。

40 Cynthia Asquith (1887-1960). 夫はイギリス首相H・H・アスキスの次男。多彩な才能を生かし、作家、画家、女優などに挑戦。1918年からは（速記もタイプもできなかったにもかかわらず）バリーの秘書を務めた。